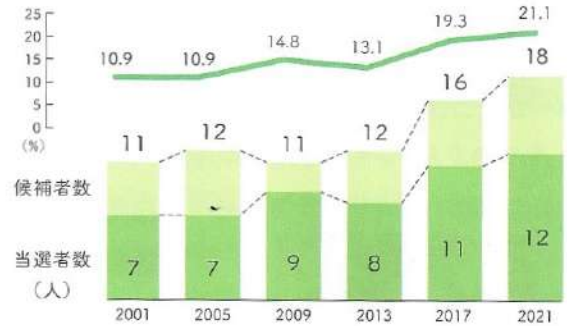


## 北九州市議会議員選挙

(2021年1月31日投開票)

定数57に対し、立候補者は81人。うち女性は18人が立候補し12人が当選しました。女性議員比率は過去最高の21.1%。最も女性当選者が多かったのは小倉南区です。定数12に対し、女性議員は選挙前の3人から5人になり、女性議員比率が41.6%になりました。



表上：北九州市議会における女性議員の割合

表下：北九州市議選における女性候補者数と当選者数

## 福岡県内で23年統一地方選までに予定される市町村議会議員選挙

福岡県内には60の市町村(29市、29町、2村)があり、2023年4月に行われる統一地方選挙までに任期満了を迎える市町村議会があります(下記の表参照)。そのうち3つの町村は女性ゼロ議会で、4つの議会で女性議員比率が1割に達していません。

2021年4月末現在

任期満了年月	市町村	定数	女性議員数	比率
2021 (令和3)	7月 中間市	17	3	17.6%
	赤村	10	0	0.0%
	9月 久山町	10	0	0.0%
	12月 太宰府市	18	3	16.7%
2022 (令和4)	2月 糸島市	20	2	10.0%
	3月 宮若市	17	2	11.8%
	宇美町	14	1	7.1%
	4月 うきは市	14	1	7.1%
	東峰村	10	0	0.0%

任期満了年月	市町村	定数	女性議員数	比率
2022 (令和4)	5月 小郡市	18	4	22.2%
	7月 添田町	13	3	23.1%
	10月 柳川市	21	1	4.8%
	11月 桂川町	10	1	10.0%
	12月 小竹町	12	2	16.7%
2023 (令和5)	1月 福津市	18	3	16.7%
	筑前町	14	2	14.3%
	2月 上毛町	12	1	8.3%
	4月	統一地方選挙		

※補欠選挙や議会解散などで上記以外でも選挙が行われることがあります

## トピック

### パリテウェブ 活用されています

福岡県小郡市で活動する地域コミュニティCORAL(コーラル)主催で、パリテウェブ4号をテーマに意見交換会がありました。オンラインでの会合に編集長の山川美幸が参加。「まわしよみ新聞」という手法で、4号の中から興味のある記事を切り抜いて意見交換し、情報を共有しました(1月31日)。

地方議会議員事務所でインターンシップに参加している大学生と共に、上記の「まわしよみ新聞」の手法で、最近の新聞記事やパリテウェブ1~4号から気になる記事を持ち寄り、壁新聞を作成しました(写真、2月28日)。



# “パリテ”で変えよう121位

候補者男女均等法の展望



三浦 まりさん

上智大学教授（ジェンダーと政治）、女性の政治リーダーを育てる講座などを運営する一般社団法人パリテ・アカデミー共同代表。超党派の「政治分野における女性の参画と活躍を推進する議員連盟」のアドバイザーを務め、2018年の「政治分野における男女共同参画推進法」成立に貢献した。著書に「日本の女性議員—どうすれば増えるのか」など。

福岡・女性議員を増やす会は5月22日、女性のための政治スクールの公開講座を開きました。新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言中のため、一堂に会することができずオンラインでの開催となりました。講師の三浦まりさんは、日本で女性議員が増えない現状を指摘するとともに、「勇気をもって一步を踏み出しましょう」と議員を目指す女性たちにエールを送りました。講演の主な内容は次の通り。

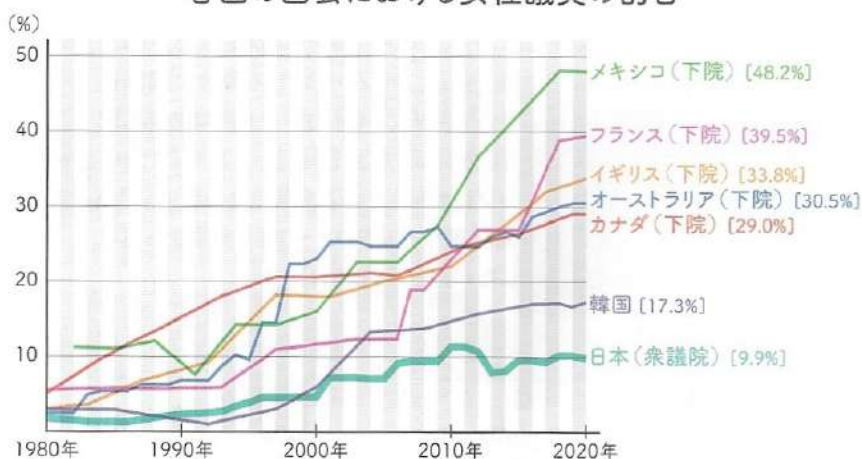
## 圧倒的に少ない女性の政治参画

世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数<sup>（※注1）</sup>で、日本は121位（2019年、153カ国中）と低い状況が続いています。それは意思決定にかかわる女性が少ない、とりわけ政治にかかわる女性が少ないということです。政治は未来を変えること。政治を変えることによって必要な法律・条例をつくることができ、予算の配分を変えることを通して、社会を良い方向に変えることができる。だからこそ政治に多様性や女性の参画が必要なのです。

国会議員の女性比率は衆院で9.9%、参院で22.9%。内閣府男女共同参画局の資料によると、地方議会でも同じで都道府県議会議員平均11.4%（福岡県10.3%）、市区議会議員平均16.6%（福岡県16.1%）です。男性国会議員の前職は都道府県議が最も多いことから見ても、あらゆる議会で女性が増える必要があるのです。

列国議会同盟（IPU）によると、国会議員における女性比率（二院制の場合は日本の衆議院にあたる下院）が40%を超える国は23カ国、30%を超える国が51カ国に上っています。ただ、各国の国会議員の女性比率は右表で分かるように1980年代初頭は各国に大きな差はありませんでした。40年後の現在、日本は大きく引き離されました。世界各国で女性の政治参画のスピードは速い。日本で現在2人しかいない女性閣僚が米国・バイデン政権では5割を占めたことも注目されています。

各国の国会における女性議員の割合



出典：IPU及び各国の議会・選挙管理委員会作成資料 [ ]内は2020年1月時点の値

## クオータで女性を増やし多様性を

どうして日本で女性の政治参画が進まなかったのか。大きな理由の一つは、196カ国・地域の内129カ国・地域が導入しているクオータ（数値目標）制が日本にないからです。本日のタイトルの「パリテで変えよう」のパリテはフランス語で性別均等・男女同数という意味。民主主義の原則として、意思決定は男女半々という考え

方のことです。2018年に成立した「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」（候補者男女均等法）には「男女の候補者数ができる限り均等となることを目指して…」とパリティの理念が入っています。今の議会は女性だけでなく若い人、障がい者、外国にルーツのある人、性的マイノリティーの人などが圧倒的に少ない。こういうさまざまな人たちが一緒に暮らしているのが社会であって、その声は政治に反映されるべきなのです。

一方でクオータはその手段です。クオータ制であえて女性を増やすことで多様性が生まれるということです。残念ながら候補者男女均等法は、政党などに対して「男女の候補者数について目標を定めるなど、自主的に取り組む…」と定めていますが、努力義務です。ただ、法律を変えていくことはできる。例えば、女性候補者や女性議員へのハラスメント被害が多く報告されていますが、早ければ今国会でハラスメント防止を盛り込んだ候補者男女均等法改正案が成立する見通しです。このように女性たちが声を上げて政党にプレッシャーをかけ続ける必要があります。

## 勇気をもって一步を踏み出そう

政治家になるために右図のような段階が考えられます。女性が立候補しようとするとうちやもたれ、家族や地域などさまざまな壁が立ちます。内閣府が立候補を取りやめた男女それぞれに聞いた調査（女性の政治参画の障壁等に関する調査研究報告書、2021年3月）で、女性の方が家族や周りのことを考え、それが立候補の障壁になっていることがわかります。突き詰めると「政治は男性のもの」という意識がまだ根強いのです。

さらに女性リーダーが直面する問題として、女性がリーダーらしく振舞うと嫌われる、逆にするとリーダーとしての資質・能力に欠けるとみなされるということがあります。そして図2の最初のステップで女性は「自分に自信が持てない」という大きな壁にぶち当たり、一步を踏み出せないケースがあります。

私が共同代表を務めるパリティ・アカデミーで、超党派の女性国会議員12人に「政治家の仕事って何ですか」と聞いたところ、全員が「聞くことです」という答えだった。政治家の役割は自分の主張を舌鋒鋭く訴えるのではなく、多様な声を聞き、そこから課題を見つけ、調査・交渉・合意形成して制度を変えていくことです。そう考えると、得意だという女性は多いと思います。政治家への道を諦めるのではなく「勇気をもって一步を踏み出しましょう」。政治家を目指すにはどのような壁が考えられ、どうやったら乗り越えられるのかをそれぞれが考え、ディスカッションして知恵を交換してほしいと願っています。

